

## 2025 年 12 月訓練

### キリストを経験し、享受し、表現する (4)

#### 標語

エホバとしての、また人としてのキリストは、王であって、  
神の民を供給し、顧み、覆います。

彼は、支配する王であり、また人でもあって、  
風を避ける避け所や、暴風を避けるおおいのようであり、  
乾いた所にある水の流れのようであり、  
荒廃した地にある大きな岩の影のようです。

わたしたちは命の木としてのキリストを食べるために、  
すべての事で彼を第一位としなければなりません。  
それは初めの愛をもって彼を愛し、  
彼の愛に押し迫られ、彼を尊重し、  
彼をわたしたちの生活の中であらゆるものとする事です。

兄弟たちは、小羊の血のゆえに、また彼らの証しの言のゆえに、  
訴える者に打ち勝ちました。  
彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛しませんでした。

王国で、主は人々に太陽として公に現れますが、  
大患難の前には明けの明星として、勝利者にひそかに現れ、  
彼らを携え上げます。

イエスの証しのための神の忠信な証人

聖書：啓 1:1-2, 5, 9-12, 7:9-17, 19:10

- I. キリストは神の忠信な証人、神の証しまた表現です。彼が神を表現することは、彼が証しすることです——啓 1:5, 3:14:
- A. キリストは神の証人であり、神の証しまた表現です。召会はキリストの証しまた表現です。それゆえ、召会はキリストにある神の証しまた表現との複製です——1:5。
- B. 啓示録は、啓示されたキリストと証しする召会をわたしたちに提示しています。この召会は、イエスの証しです。キリストは神の証しであり、召会はイエスの証し、三一の神の団体の表現である拡大されたキリストです——ヨハネ 1:18, 5:31-37, 8:14, 啓 1:2, 5, 9, 19:10, 参照、創 1:26。
- II. イエスの証しは、七つの金の燭台<sup>しょくだい</sup>です。これらの燭台は、性質において金(神聖なもの)であり、暗やみの中で輝いており、互いに同一です——啓 1:1-2, 9-12:
- A. 金の燭台は、三一の神を象徴しています。すなわち、実質としての御父は、御子において具体化されています。具体化としての御子は、その霊を通して表現されています。その霊は諸召会として完全に実際化され、表現されています。諸召会はイエスの証しです——出 25:31-40, ゼカリヤ 4:2-10, 啓 1:10-12。
- B. わたしたちは金の燭台を、イエスの証しとして、すなわち、イエスの団体の表現として経験するために(使徒 9:4-5, I コリント 12:12)、絶えず主イエスの御名を呼び求めることによって(I コリント 12:3, 13, ローマ 10:12-13, 哀 3:55-56)、イエスの霊で満たされ(使徒 16:7)、イエスの焼き印を帯び(ガラテヤ 6:17)、兄弟たちとなり、イエスにある患難と王国と忍耐とに共にあずかっている者にならなければなりません(啓 1:9-10)。
- C. 金を打ちたたいて台を形成することは、信者がキリストの苦難にあずかることを表徴します。わたしたちの環境の中で起こるあらゆる事は、打ちたたかれた燭台を生み出すためです——出 25:31, コロサイ 1:24:
1. もしわたしたちが神を知ろうと固く決意して、その霊の内なる働きと外側の環境に服するなら、あらゆる環境は、わたしたちが彼を知る機会となります——ホセア 6:1-3, ピリピ 3:10 前半, エペソ 6:20, 参照、創 41:42。
  2. もし人が一生のうちに神を知らなければ、彼は一生を無駄にしたこととなります。どうか主がわたしたちに、わたしたちの環境の中の彼の取り扱いを受け入れる願いを与えてくださり、わたしたちがさらに彼を知ることができるようにしてくださいませ——II コリント 4:16-18, 12:7-9, 参照、イザヤ 7:14-15, II コリント 5:14-15。
  3. 物事の最も重要な点は、さまざまな困難や試練のただ中で、大いなる光としての主に出会うかどうかということです。苦難は、わたしたちが理解できなかった事をわたしたちに理解させることができます——1:8-9, 参照、エペソ 1:17, ルカ 1:78-79。
- D. 金の燭台の輝きによって人々は、燭台の間を歩く人の子としての、栄光のキリストのビジョンを見ます。諸召会の間にいる主が、永遠にわたって生きている方であることを知ることによって、わたしたちは絶えず霊の中で彼の臨在を確信することができます。彼はいつも生きていて、わたしたちのためにとりなしてくださいませ。彼は今やわたしたちのために、神の御顔の前に現れてくださいませ。彼は決して間違いを犯すことがなく、またわたしたちを見捨てません——啓 1:12-18, 2:1, II テモテ 4:22, ヘブル 7:25, 9:24, 民 6:22-27, 申 31:6。

- E. 七つの金の燭台の七つのともし火の輝き、主イエスが火の炎のような七つの目をもって燭台の間を歩くこと、彼の足が輝く青銅のようであること、彼の御顔の輝きが太陽のようであることが示しているのは、わたしたちの日常生活と召会生活の中で、わたしたちが日々、ますます主の輝きを必要としているということであり、それはますます主に牧養していただくためです。すなわち、ますます救い、回復し、復興し、神化<sup>かみ か</sup>していただくためです——啓 1:14 後半-15 前半, 16 後半, 4:5, 5:6, ルカ 1:78-79, II コリント 4:6-7, マラキ 4:2, 箴 4:18, 詩第 22 篇, タイトル, 80:1-3, 7, 15-19。
- F. 照らしは、神のあわれみと共にあります。いつであれ神がやって来て、彼のあわれみを与えてくださるとき、彼の御顔の光はわたしたちの光であり、彼の現れはわたしたちのビジョンであり、彼の臨在はわたしたちの獲得です——ローマ 9:15, 使徒 9:3-4, イザヤ 50:10-11, 民 6:25-26:

1. わたしたちは照らされるために、主の照らしを求め、主の照らしを受け入れ、固く決意して単一になって、すべての願いをもって主だけを追い求めなければなりません——詩 139:23-24, ピリピ 2:12-16, 歴代下 12:14, 16:12, 34:1-3, 詩 27:8, 73:25, ルカ 11:33-36。
2. わたしたちは照らされるために、自分自身を主に対して開き、わたしたちの心を主に向け、何も保留したり、とどめたりせずに、自分自身を主の御前に置かなければなりません。自分自身を主に対して閉ざす人は、他の人を裁き批判する専門家です——II コリント 3:16, 箴 20:27, マタイ 7:1-5, ルカ 6:36-37, 41-42。
3. わたしたちは照らされるために、自分自身を停止しなければなりません。これが意味することは、わたしたちの見解、わたしたちの物事の見方、わたしたちの感覚、わたしたちの考え、わたしたちの意見を停止することです。完全に停止している人が主の御前にやって来るとき、彼は非常に単一になり単純になって、主の言葉を受け入れることができます——10:38-42, ヨハネ 11:21-28, イザヤ 40:31, マタイ 5:3, ルカ 18:15-17, イザヤ 66:1-2。
4. わたしたちは照らされるために、わたしたちの内側で語るその霊の光と争ってはなりませんし、外側で語る霊の奉仕者たちと争ってはなりません——使徒 22:10, 雅 5:4-6, II コリント 10:3-5, 11:2-3, 民 16:1-7, 31-39, 17:1-8, 参照, 出 33:11-14。
5. わたしたちは照らされるために、絶えず光の中で生きなければなりません——イザヤ 2:5, I ヨハネ 1:7, ヘブル 9:14, 10:22, マタイ 5:3, 8, 14, 詩 119:105, 啓 1:20, 詩 36:8-9。

III. イエスの証しは、宮の中で神に仕えている大群衆、すなわち、神の贖われた人たち全体です。彼らは天へと携え上げられて、神の顧みと小羊の牧養を享受し、天上にある、またキリストの中にある霊のあらゆる祝福を得ます。それは、今日わたしたちが享受することのできるものです——啓 7:9-17, エペソ 1:3, ガラテヤ 3:14, 創 12:2, 参照, 啓 21:3-4, 22:3-5, イザヤ 49:10:

- A. 大群衆は、小羊の血をもって、あらゆる国民、部族、民族、言語から買い取られた人たちから成っており、召会の構成要素となっています——啓 7:9 前半, 5:9, ローマ 11:25, 使徒 15:14, 19, I コリント 6:19-20。
- B. 「これらは大きな患難から出て来た人たちであって、彼らの衣服を小羊の血で洗い、白くしたのである」——啓 7:14:
1. 14 節の大きな患難は、すべての時代を通して、神の贖われた民が経験した患難、苦難、迫害、苦悩を指しています——ヨハネ 16:33。

2. 小羊の血は、神の御前で、わたしたちに対する悪魔の訴えすべてに答え、彼に対する勝利をわたしたちに与えます(啓 12:11)。開かれた血の泉としての贖うキリストが、わたしたちのすべての罪と汚れを洗ったゆえに(ゼカリヤ 13:1. ヨハネ 19:34)、わたしたちはその血に身を浸して、わたしたちのすべての罪の汚れを消すことができます(詩歌 686 番、1 節)。また、「立ち上がって、神ご自身の光の中を歩き、この世と罪を超越し、心は新しくされ、衣は白くされ、内側でキリストが御座に着きます」(英文詩歌 1010 番、3 節)。

3. わたしたちの衣服を洗うことは、小羊の血の洗いを通して、わたしたちの行為を清く保つことです。これはわたしたちに、命の木を享受する権利を与え、また神の永遠の祝福の領域である命の都の中へと入らせます——Ⅰヨハネ 1:7. 啓 22:14。

C. 大群衆は、しゅろの枝を手にして、御座と小羊の前に立っています——7:9 後半：

1. しゅろの枝は、主のために受けた患難に対するわたしたちの勝利を表徴します。しゅろの木はまた、水が注がれることを通して得られた満足のしるしでもあります——14 節。参照、ヨハネ 12:13. 出 15:27。

2. 神の宮としての三一の神の中で、わたしたちは昼も夜も彼に仕え、彼を永遠の仮<sup>かりいお</sup>庵の祭りとして享受し、しゅろの木のように命において栄えます——啓 7:15 前半、3:12. レビ 23:40. ネヘミヤ 8:15. 詩 92:12-13. ヨハネ 7:2, 37-39. ローマ 1:9. コロサイ 2:19。

3. 今日のわたしたちの時間の中での奉仕は、永遠の中の奉仕のための準備です。時間の中での神の唯一の目標は、ご自身を日々、わたしたちの中へと分与することです。神がわたしたちの中へと入って来て、わたしたちから出て来るとき、それが奉仕です——マタイ 25:19-23. ヨハネ 7:37-39。

D. わたしたちはもはや飢えることがなく、渇くこともありません——啓 7:16 前半：

1. 飢え渇くとは、まだ満たされていない望みがあるということです。キリストは、彼の中へと信じるすべての者が満足して、満足させる命としての彼を受けることを約束しています——ヨハネ 6:35。

2. わたしたちの霊の中で、霊なる神と接触することは、生ける水を飲むことです。そして、生ける水を飲むことは、神に対して真実な礼拝をささげることです——4:13-14, 23-24。

E. 打つ太陽と焦げつくような熱さが、わたしたちを襲うことはありません——啓 7:16 後半：

1. 御座に座している小羊・神は、わたしたちの上に幕屋を張り、彼ご自身をもってわたしたちを覆います——15 節後半、Ⅱコリント 12:9。

2. 神のおおいの下にある命が一つあります。それは、神の中に隠されている命です——詩 36:7-9. エペソ 6:17. 詩 91:1, 17:8, 57:1. ルツ 2:12。

3. エホバとしての、また人としてのキリストは、王であって、神の民を供給し、顧み、覆います。彼は、支配する王であり、また人でもあって、風を避ける避け所や、暴風を避けるおおいのようであり、乾いた所にある水の流れのようであり、荒廃した地にある大きな岩の影のようです——イザヤ 32:1-2。

F. 御座の中央にいる小羊は、わたしたちを牧養し、わたしたちを命の水の泉に導きます——啓 7:17 前半：

1. 牧養することは、養うことを含んでいます。キリストの牧養の下で、「わたしには欠けるものはありません」——詩 23:1。

2. わたしたちは決して自分自身を改善することはできません。わたしたちは、いつもわた

したちを養ってくださる牧者を必要とします。彼は、神の小羊としての彼の経験をもって小羊たちを養います。この神の小羊は、神の御座に座しており、神の家の中におり、また神の家のためです——2-6 節。啓 22:1。

G. 神はわたしたちの目から、涙をすべてぬぐい去ってくださいます——7:17 後半：

1. 涙は、この時代には避けることのできないものです。しかし、わたしたちの涙は、神の皮袋の中に入れられ、彼の書に記されます——ヘブル 5:7。使徒 20:19, 31。詩 56:8。参照、マラキ 3:16。
2. 小羊がわたしたちに命の水を供給して、わたしたちを満足させてくださるので、涙の水はぬぐい去られます——エレミヤ 9:1。2:13。参照、15:16。哀 3:21-25, 55-56。
3. 神に感謝します。悲しみの日と悲しい事柄は、長くは続きません。この世は過ぎ去りつつありますが、わたしたちは祝福されており、流れ出る三一の神から飲み、ついにはわたしたちは、永遠の命の総合計、すなわち、新エルサレムとなります——ヨハネ 4:14 後半。